

# くまもとの花卉園芸

花卉園芸の発達は、国民生活の向上や生活様式の変化などによる、いけ花利用の増加に伴い、年々着実な発展を示している。全国の花弁生産の動きは、昭和三十五年に七十二億円であった生産額が、昭和四十三年には、二百七十億円と八年間に約三七五パーセントの伸びとなっている。また、熊本県の花弁生産は、昭和三



十六年に一億三千万円であったものが、昭和四十三年には五億六千万円となり、七年間に約四三〇パーセントの伸びとなっており全国の伸びをはるかに上廻っている。

## ★熊本県における花卉園芸の発達

本県の花弁園芸は、江戸時代中期より発達した肥後六花（肥後ツバキ、肥後サザンカ、肥後アサガオ、肥後ショウブ、肥後ギク、肥後シヤクヤク）で知られるように、かなり以前から盛んに行なわれていた。しかし産業としての花卉栽培（切花栽培）は、昭和初期（昭和二～三年）に熊本市田迎町（当時飽託郡田迎村）でカーネーションを主体とした温室での切花栽培と、天草郡大矢野町でキンセンカを主体とした露地切花栽培が行なわれるようになったのが始まりである。その後、年々栽培面積は増加し、産業

として発達してきた。しかし戦時中は一時、ほとんど栽培されなくなったが戦後再び栽培がはじめられ、昭和二十六年頃からは、ビニールなどの出現により急速に栽培が増加した。その後は、生活の安定向上に伴って花卉の需要も年々増加し、これと相俟って新興産地も出来、現在の産地形成がなされてきた。

## ★花卉園芸のこのころ

熊本県では比較的温暖な気候や、海岸の霜害地帯などの地域性を生かした花卉の産地形成が行なわれている。現在、産地形成ができている地域は、熊本市近郊、下益城郡小川町、富合村、菊池郡七城町、上益城郡甲佐町、天草郡大矢野町などがある。そのほか、鹿本地方、八代地方、天草郡栖本町、倉岳町に産地形成がなされつつある。

### □熊本市近郊

熊本市田迎町、近見町を中心とするカーネーション、ギク、球根切花の産地と御幸町のカラー、清水町の球根切花、竜田町の花木、枝もの、の産地からなっており、本県の施設花卉栽培の主体で、現在の栽培面積は約一千五百アールである。

る。昭和四十四年からは、生産者の意識高揚により、カーネーション、カラーを主体に農協共販による県外出荷が始められた。今後、この体制を確立して行けば、移出産地としてさらに産地の発展が期待できる。

### □下益城郡小川町

昭和三十六年頃からカーネーションの栽培がはじまり、小野部田花卉生産組合を結成し全員共同販売を実施し、県外出荷を主体とした産地である。現在、鹿兒島、北九州主体に出荷している。栽培面積は約百アールである。

### □下益城郡富合村

栽培の主体は、菊とカーネーションであるが菊とカーネーションの栽培は地域を異にしている。現在、カーネーション五十アール、菊四百アール程度の新興産地であり、今後の栽培増加が期待できる産地である。

### □菊池郡七城町

菊池川中流の水田に産地形成ができ、地形の条件を生かした湧水利用によるカラーの栽培が行なわれている。七城カラー組合の名のもとに全員共同販売を実施し、関西、中国地方はもとより、北陸地方にも出荷して、熊本のカラーとして全

## ★本県花卉園芸の推移

年度	栽培面積 ha	生産額 千円
36年	51.1	130,078
37	75.8	214,578
38	90.0	319,073
39	100.3	260,344
40	96.6	284,270
41	105.2	295,319
42	143.5	451,902
43	118.0	569,285

国的に有名な産地となっている。約三百アールが栽培されている。

### □上益城郡甲佐町

花木、枝もの主産地として知られ、甲佐町と城南町にまたがる前原台地一帯に産地形成がなされている。栽培面積は、約二千五百アール。花木、枝もの、の需要が増大する傾向にある今日、今後の産地の近代化をすすめて行けば、花木の産地としてますます有望な地域になりつ

つある。

### □天草郡大矢野町

無霜地帯の気候条件を生かした露地切花の主産地。現在、岩屋、東満一帯に産地化が進み、導入されている種類は多く、キンセンカ、キンギョソウ、寒菊など約二十種で栽培面積は、約三千八百ヘクタールである。今後は、組織的な活動を活発に行ない共同出荷体制の確立をはかり、県外市場へ進出して行くことがさらに産地を発展させるためには必要である。

## ★問題点と今後の方向

本県の花弁園芸は、恵まれた気象条件のもとに年々栽培面積は増加しており、今後もその傾向は続くものと思われる。しかし今後本県の花弁園芸が飛躍的に発展するためには、京浜、京阪神への出荷を主体とした産地体制の確立をはかることが必要である。

そのためには、栽培技術の改善、向上を図ることはもとより、生産者組織の強化をはかり、生産者の有機的な活動により、計画的な生産、出荷体制を確立し、産地の集団化、施設の近代化、機械化の促進をはかって生産性の向上をはかることが必要である。  
(果樹園芸課)

## ★昭和43年熊本県における花卉生産状況

品目	栽培面積 m <sup>2</sup>	生産量 千本	生産額 千円
きく	196,099	19,074	125,857
カーネーション	72,832	14,865	105,811
ユリ	21,450	2,925	96,750
チューリップ	7,095	660	10,620
枝もの	262,900	7,658	33,210
カラー	47,800	2,500	12,500
きんせんか	174,000	7,500	15,000
金魚草	57,618	9,428	23,486
矢車草	94,800	5,400	10,800
その他	154,284	20,690	111,426
鉢物	7,259	324	23,825
計	1,096,147	91,024	569,285
球根養成	829 <sup>a</sup>	1,633 <sup>球</sup>	
総計	1,179,047	92,657	